9　畜産への理解醸成のための食育活動

川越家畜保健衛生所
○塩入　陽介・平田　圭子

Ⅰ　目的とねらい

埼玉県では都市化の進展とともに、畜産農家が減少し、家畜を間近で見たことのない子供が増えている。

こうしたなか、家畜保健衛生所（以下「家保」）では、県民が畜産に慣れ親しみ、安全・安心な畜産物を作るための農家の努力や畜産の現状を知ることで、畜産業への理解を深めてもらうとともに、併せて畜産物の消費拡大や、命をいただく事の大切さを啓蒙することを目的として、様々な食育活動に取り組んでいる。

Ⅱ　具体的な取組み

家保が直接実施、又は協力している食育活動を図 1 に示した。

項目	事業主体	対象者	目的
わくわくモーモースクール	埼玉県酪農教育ファーム推進委員会	県内小学生	食と命の学びへの支援 酪農業への理解
県政出前講座 「のぞいてみよう家畜のくらし」	川越家保	管内高校生	畜産業への理解
わくわくアグリスクール	管内JA	JAいるま野 管内小学生	地域農業への理解
S食育ネット ジョイント事業	S食育ネットワーク	大学生 (D大学)	食の安全･安心

図 1　家保の取組み

1　「わくわくモーモースクール」（以下「スクール」）

スクールは県内の酪農・教育・行政関係者、乳業者、給食供給者、学識経験者からなる「埼玉県酪農教育ファーム推進委員会」が主催し、県内小学校を対象に、児童が搾乳体験や子牛とのふれあいを通じ、牛乳や酪農に対する理解を深め、命の尊さと食を支えてくれ

ている人々の心を学ぶことを目的としている。

平成 18 年 3 月から平成 25 年 11 月まで、県内 21 校、10,847 人の児童を対象に実施している。

主な内容は、校庭へ連れてきた乳牛に直接触れ、搾乳や子牛への哺乳などを体験したり、酪農家の 1 日の作業などの話を聞く「酪農体験コーナー」(図２)、牛乳が製品になるまでを VTR で説明を受けたり、生クリームを撹拌・分離してバターづくりを体験をする「牛乳・乳製品コーナー」(図３)がある。家保は例年、バターづくり体験を担当している。

図２　酪農体験コーナー

図３　牛乳・乳製品コーナー

今年度、スクールを実施したＡ小学校で、実施前後でアンケート調査を実施した。

アンケートの結果から（図４、５）児童の半数以上が牛を近くで見たことが無かった。牛を「好き」か「嫌い」かの質問に対し、「好き」という回答は、実施前は 38%だったが、実施後には 57%と増加した。「嫌い」という回答は、実施前 14%だったが、実施後には 5%と減少した。牛に対する印象は、実施後には、「かわいい」「きれい」といった好印象が増加し、「怖い」、「きたない」といった悪い印象が減少した。牛を飼うことについては、実施後に、「楽しそう」という回答が若干増加した。

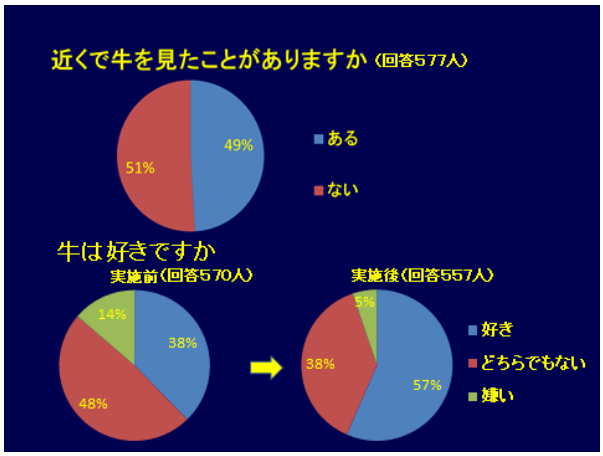

図４　アンケート結果

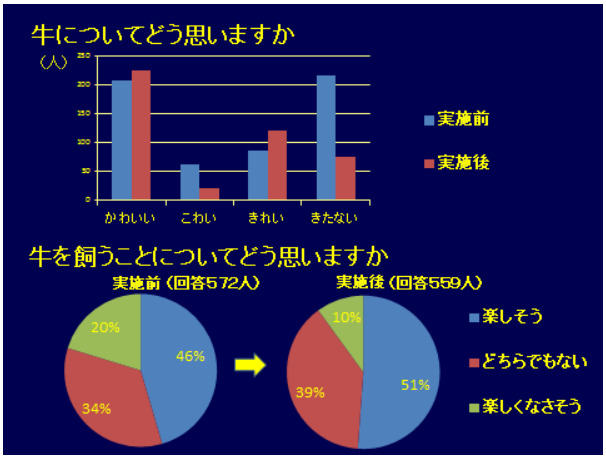

図５　アンケート結果

また、昨年度には、県内ろう学校にてスクールを実施した。特別支援学校でのスクールは全国でも初めてだったが、説明資料や模型（図６）などの視覚による説明を多用することにより、通常のスクールと何ら変わりなく実施できた。説明資料では、通常口頭にて説明しているバターづくりの方法を文書にして配布した。模型では、生乳中で脂肪球がタンパク質の被膜に包まれているものを、激しく振ることにより、脂肪がくっついてバターになるという原理を、脂肪球を工作用スポンジ、タンパク質の被膜をティッシュペーパーを使用して作成し、視覚化した。

図６　説明資料と模型

２　県政出前講座「のぞいてみよう家畜のくらし」

管内Ｂ高校において、現代社会の授業の一環として、平成 21 年度から現在までに 5 回、毎年 2 クラス・394 人の生徒を対象に実施している。スライド等を利用し、酪農を例にとって、家畜の一生や畜産業を取り巻く情勢を説明し（図７）、講座後にはアンケート調査を実施している。今年度のアンケートでは、94％の生徒から「講座は参考になった」との回答があった。また、家保の仕事内容や、経済動物としての家畜に対する理解、牛乳・乳製品を摂取することの大切さ、畜産農家の努力への敬意等の感想・意見が聞かれた。

図７　県政出前講座「のぞいてみよう家畜の暮らし」

３　わくわくアグリスクール

管内ＪＡが主催し、農作業体験や家畜とのふれあいを通じた、地域農業への理解促進等を目的に、小学生を対象に実施している。搾乳体験や哺乳体験といった、スクールと同様の体験コーナーがある。（図８）家保では子牛の世話等の手伝いを担当している。

図８　わくわくアグリスクール

４　Ｓ食育ネットジョイント事業

管内Ｃ保健所及び関係機関、Ｄ大学を中心とした食育について考えるネットワークの一員として、Ｄ大学の３年生を対象とした授業に参加している。

家保はブースを出展し、家保の業務内容、飼養衛生管理基準、乳質改善対策等を説明している。（図９）

図９　Ｓ食育ネットジョイント事業

Ⅲ　まとめ

家保では、スクールや県政出前講座などの活動を通じて、若い世代を中心に食育活動を実施している。アンケート調査では、児童からは「牛に対する親しみ」が増え、生徒からは「畜産業に理解」を示す回答があった。今後も、様々な機会を利用した食育活動を通じて、県民の畜産への理解促進に取り組んでいく。